

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (紀南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自己有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。 自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。 地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。 育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い、学び続けることができる教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>【同窓会】母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】卒業生が生き生きと高校生活を送り、成長していく。</p> <p>【地域の関係諸機関】さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【学校運営協議会】魅力・活力ある学校にする。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくり。</p> <p>【PTA】PTA活動活性化への支援。</p>		<p>【同窓会】生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】生徒に関するの情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【学校運営協議会】教育活動への積極的な参画。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくりを支援。</p> <p>【PTA】保護者との架け橋。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 学校を活性化するさまざまな取組は評価できる。しかし、志願者の減少に歯止めがかかっておらず、その原因を究明し、対策をすることが必要である。 PRは通信やブログ等で活発に行っているが、思うほど成果が上がっていない。SNSを利用するなど方法を再考する必要がある。 教育活動による成果の説明が不十分ではないか。教育活動による成果をもっと丁寧に説明すべきである。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学んだことをしっかり身に付け、それにより学力が向上するとともに、「学んだことが役に立つ」「やればできる」という体験をとおして自己有用感を高めることが必要である。そのため、教育活動のあらゆる場面で生徒の自主性・主体性を引き出せるよう教職員が授業改善や教育課題に関する研修を積極的におこなうことが重要である。 安心して学校生活を送るために、生徒一人ひとりにあった方法で学校生活が支援できるように、生徒の様子等の情報を共有する機会を多く持てるようにする必要がある。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・紀南高校に求められているものがどういうものであるかを可能な限り正確に把握する必要がある。 ・中学生に選ばれる学校に向けて、教職員間だけでなく、学校運営協議会をはじめとして関係機関との対話の場を設定する必要がある。 ・目指す学校像をふまえた、生徒へのより丁寧な支援のために、教職員が丁寧な情報共有をおこなう必要がある。 ・生徒に寄り添い、一人ひとりにあった方法で生徒を支援することは本校の教育活動の根幹である。このことには大変な労力と時間が必要であり、丁寧になるほどに業務の負担は増していき、メンタル面を含めた教職員の健康面に大きな影響を及ぼす。こうした中で、教職員が、生徒と向き合い、学校の使命を果たしていくためには業務を見直し、精選していくことが重要である。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進めます。 2. 生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。 3. 生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。 2. 積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。 3. 質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した学校づくりを進めます。」に資する行動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対話集会などを通じて、地域との関わりを持ち、進路意識の向上につなげる。 ○ 各分掌が協働し、地域の専門機関等との連携を深めながら、生徒が充実した学校生活を送れるように、学校全体で個に応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の説明会などを通して、進路意識の向上が見られた。 ・中学校と情報交換を行い特別支援が必要な生徒について、個別の指導計画を作成、評価し、ネットワーク上や委員会で共有し全職員へ周知徹底した。また、その情報や発達障がい支援センターの地域支援マネージャからのアドバイスを、生徒の日常の指導や進路決定等に生かした。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の保健所や消防署と協力し思春期教育講演会（各学年、年1回）やAED講習会（1年）を行う。 ○ 紀南の風などの学校通信を定期的に発行する（年4回）。 ○ ブログ「今日の紀南高等学校」で学校の日々の様子を積極的に伝える（週3回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを取り、地域の保健師による思春期教育講演会（3年・11月、2年・12月、1年・12月）を行った。また、AED講習会（職員・8月、1年・11月）を行った。 ・紀南の風No. 36を5月に、No. 37を10月に発行した。3月にNo. 38を発行予定。 ・ブログ「今日の紀南高校」の週3回以上の更新は概ね達成できた。題材によって閲覧数にかなりのばらつきが見られた。 	
<p>②「生徒が自己有用感を持ち、自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。」に資する行動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路実現を見据えた生徒指導の観点から、規律正しい高校生活を確立させるため、毎日のSHR等で服装指導を行う。 ○ あいさつ指導や遅刻指導など、基本的な生活習慣に関する指導を継続して行う。遅刻・入室0回の生徒数を、それぞれ年間3割以上を達成する。 ○ 日常の活動に加え、学校行事などにおいて、教員が補助しすぎることなく、生徒自身が自主的に行動する活動（集合・整列等）を取り入れ、他者と協働することで、コミュニケーション能力を高められるよう促す。 ○ 就職試験や入学試験に備え、面接練習や小論文等の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のSHRを通じて、身だしなみを整えたことで、ほとんどの生徒が正しい服装で学校生活を送ることができた。 ・皆出席（遅刻・欠席・早退0回）の生徒および入室0回の生徒数を、それぞれ年間3割以上の目標を1年次生は達成できなかった。2年次生はおおむね達成できた。 ・定期的な面談や、修学旅行等を通じて、進路意識が向上し、自ら調べ、情報収集する生徒の姿が見られるようになった。 ・年間を通じて、授業へ取り組み姿勢への指導を継続的に行った。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格取得へ向けて積極的に取り組むよう促す。 ○ 授業のユニバーサルデザイン化の実施率80%以上を目指すなど、生徒の多様性に適応する授業の研究と推進。 ○ 科目選択に対する指導の充実を図るために、生徒からの質問・相談の機会を設ける。(説明会年2回、個別面談期間年2回) ○ 生徒の思考力・判断力・表現力等育成の為に、授業力向上にむけた取り組みを実施する。(通信発行月1回) ○ 就職希望者に対して丁寧に進路希望を聞き取り、企業とのマッチングを図ることで、学校斡旋による就職内定率100%を目指す。 ○ 朝の「ちりつも学習」を通じて、生徒の基礎学力の向上を目指すとともに、自己肯定感を涵養する。また看護系進学志望者の合格率100%を目指す。 ○ 進路関係の資料や郷土資料を充実させる。 ○ 昨年度より、さらに生徒会執行部の生徒が主体的に意見を出し、行事に反映できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接練習や小論文指導など、進路指導部を中心に多くの教員で指導にあたり、就職希望者の合格内定100%を達成することができた。 ・ 授業のユニバーサルデザイン化は80%以上の教員が取り入れている。 ・ 科目選択説明会、相談会をおこなった。 ・ 3回公開授業をおこなった。 ・ 通信の発行は年間で12回発行した。 ・ 学校斡旋による就職内定率100%を達成した。 ・ 朝の「ちりつも学習」を昨年度より計画的かつ効率的に実施できた。看護系進学希望者については、現在7人中5名が合格(1月末現在)。 ・ 7月に郷土資料の企画特集を設け、資料の充実に向けた努力をした。また進路関係の書籍も積極的に購入した。更なる充実に向けていきたい。 ・ 行事では、生徒会役員の意見を存分に取り入れることが出来た。
--	--	---

<p>③「生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます」に資する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別面談を年間3回以上行い、学校生活や進路などについて、生徒が相談できる機会を確保する。また、普段から相談しやすい環境づくりを行う。 ○ 面談を通じて希望の進路を把握し、適切な情報提供や相談に応じられるような体制を整える。 ○ 人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。 ○ 人権サークルのミーティングを定期的実施する。 ○ 生徒への人権啓発を推進する。 (人権LHRを各学期1回以上実施。人権サークルメンバー作成の人権教育通信「リスペクト」を学期1回発行) ○ 図書館内の展示コーナーを工夫し、館内の美化に努める。 ○ 「図書館だより」を年11回発行し、広報活動に力を入れる。 ○ 各学期1回図書委員会を開く。 ○ 図書館司書と教科との連携をさらに強化する。 ○ 蔵書の予算配分を工夫した購入や相互貸借によって、必要な資料を提供し、授業を支援する。また年10回ほど教科を対象とするリクエスト調査を実施する。 ○ 学校生活に関して、生徒の立場からルール等を提案できるよう、代議員等から意見を聞く機会(代議員会)を年1回以上開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を行い、生徒の悩みや進路について話をした。遅刻や入室が多い生徒について個別に指導した。 ・人権サークルは、各行事への参加やそれに向けた取組を中心に活動をおこなった。サークル部員はそれぞれが部活動に複数所属しているため、行事が差し迫っていない時期の活動を定期的におこなえなかったことが課題である。またこれらの活動を全生徒に紹介するという形で人権教育通信を発行した。 ・ビブリオバトルで国語科と連携している。今年度は、1名が地区予選で準優勝し、ビブリオバトル県大会三重決戦に参加した。 ・図書委員のお薦め本を館内に展示し、図書委員の手作りのPOPを飾った。図書委員が書いた本の紹介記事を、「図書館だより」に掲載した。 ・リクエスト調査を続け、教科からリクエストがあった本は、ほとんど購入している。 ・代議員会は開催することができなかった。
---	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々に応じた生徒指導ができるよう、生徒個人の特性を教員間で共有するよう努める。(週1回は担任と情報共有) ○ 生徒が、いじめに関する相談をしやすい体制を作る。また、学期に1回以上、いじめや学校生活に関するアンケートを実施することにより、友人関係等の把握に努める。 ○ 校内施設の利用マナー及びゴミの分別の意識向上のために、保健委員を中心に啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団との情報共有は、その都度、必要に応じて行った。 ・アンケートは、学期に1回実施した。 ・教職員向けの研修は実施できなかった。 ・保健委員を中心に、学校環境デーにおいて環境美化のための啓発活動を行った。 	
--	---	---	--

改善課題

- ・ 基本的な生活習慣や授業に向かう姿勢の向上のための指導を行う必要がある。
- ・ 三年間を見通したキャリア教育は実施できているが、より良い進路決定のためにも、各教科やHR等でキャリアデザインを意識した取組を充実させる必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。」に資する活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭訪問を各家庭年間1回以上(1年次)、三者面談を年間1回以上行う。 ○ 学年通信の定期配信や電話等での連絡を通じて保護者に積極的に情報提供を行うことで、保護者と連携して生徒指導やキャリア教育などを行う。 ○ 総務と連携してブログ、学校案内などを用いたPR活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問・三者面談を年1回以上行うことができた。 ・学年通信を発行し保護者に学校の様子を伝えることができた。また、適宜家庭連絡を行い、学校での様子を伝えた。 ・ブログの為に写真撮影を継続的におこなっている。新イメージの学校案内完成(9月) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の中学校と連携して、インターンシップ選択生が中学校を訪問し、その活動や学んだことを中学生に発表する「インターンシップ報告会」を複数回行い、本校の魅力を発信する機会とする。 ○ 「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」において、本校の人権LHRを公開し、その内容について交流、協議を実施する。 ○ 会議等において、他校の人権教育担当教員や人権教育課、隣保館職員との情報交換を密に行う。 ○ HPや「紀南の風」などでの情報内容の充実を図り、効果的な広報活動をめざす。 ○ 図書館の地域開放を継続する。 ○ 中学生の職場体験学習の受け入れを継続する。(図書) ○ 警察署等と連携し、交通安全や防犯などに関する啓発活動に積極的に参加する。(年3回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ報告会」を御浜中学校、阿田和中学校で行い、学校のPRを行った。 ・6月に「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」を開催。また、「人権感覚あふれる学校づくり事業」の研究協力校として、計2回の人権LHRを公開した。会議等で他校の人権教育担当教員や人権教育課、隣保館職員との情報交換を定期的に行うとともに、隣保館とは平時にも相談できる関係づくりを進めている。 ・一般の利用者への貸出は、昨年度4冊。今年度は1月6日現在で77冊に増えた。 ・職場体験学習は1名を受け入れた。 ・関係機関と連携した取り組みは、年間4回実施した。 	
<p>②「積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。」に資する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年や各分掌等との情報共有を行う密に行い、学校全体で生徒へ支援・指導を行いやすくする。 ○ 報告・連絡・相談しやすい環境を作るとともに、朝の打合せ後の時間を利用し生徒に関する情報共有を図る。 ○ 保護者会や三者面談等を通じて、科目選択などについてもしっかり説明を行うことで、キャリア教育を家庭と連携して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒について、服装の乱れや遅刻・入室を繰り返す現状があるため、生徒指導・支援部と連携し指導した。 ・家庭訪問や3者面談を行い、連携を図った。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の授業力向上にむけた取り組みの機会を設け、推進する。(通信発行月 1 回) ○ 教職員への人権啓発を促進する(研修会を年 2 回以上実施。教職員向け人権教育通信「勁草」を学期 1 回発行)。 ○ いじめに関する法令等、生徒指導上で留意すべき関係法令等に関する教職員向けの研修を 1 回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信の発行は年間で 1 2 回発行した。 ・ 通信の定期的な発行が出来た。人権研修会は 6 月に 1 度実施。3 月にも実施予定。 ・ 教職員向けの研修は実施できなかった。 	
<p>③「質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。」に資する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路資料室や学校掲示板を活用し、情報収集能力を育成する。 ○ 校務支援システム入力、成績処理や定期考査業務など、様々な教育活動への円滑かつ適切な支援を行う。 ○ 進路面談を通じて生徒の進路希望を丁寧に聞き取る。3 学年団と進路指導部の連携については、共有フォルダを活用することで、生徒情報の共有を徹底する。 ○ 人権教育担当者会議を計画的かつ系統的に行う。(年 6 回以上実施) ○ 行事の目的を再検討し、有意義な生徒会行事になるよう検討委員会で協議する。(年 3 回以上) ○ 校務支援システムや共有フォルダ等を活用し、対面でなくても情報共有できるシステムを構築する。 ○ 生徒指導・支援部および生徒会が主催する行事等を 1 つ以上削減し、2 つ以上を簡素化する。 ○ 生徒一人ひとりに適切な支援が行えるように、個別の教育支援計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自ら積極的に情報を得ようとする姿勢が多く見られた。 ・ マニュアルを作成するなどして支援した。 ・ 3 学年団との連携を密にし、生徒との進路面談を丁寧に行うことができた。 ・ 人権教育推進委員会の定期的な開催が出来た。 ・ 検討委員会は年間 4 回実施。 ・ 生徒情報を共有するためのシステムはあるが、有意に活用できているとは言い難い。 ・ 1 学期クラスマッチを削減した。 ・ 特別支援が必要な生徒 11 人について、個別の 	

	<p>○ 特別支援教育推進委員会、学校保健委員会を中心に、生徒指導・支援部、学年主任、カウンセラー、発達障がい支援員、SSW、地域の支援センター（colors）、特別支援学校、医療機関等と連携しながら適切な支援を行う。</p> <p>○ マネジメント委員会を中心に業務の精選を行う。精選のための会議を学期1回。次年度に向けた提言を年度末におこなう。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外労働時間を月あたり4時間削減 ・ 休暇取得日数を年あたり1日分増加 ・ 月80時間を超える時間外労働者を50%削減 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日の設定 月あたり1日設定し、設定した日に退校できる職員の割合85%を目指す。 ・ 放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合を90% ・ 部活動休養日を週に1日設定し、予定どおり休養日を実施できた割合を100% 	<p>指導計画を作成し、評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援が必要な生徒に対して、県の発達障がい支援員の派遣を2回要請した。 ・ 特別支援教育に関する教員向け研修会を2回（6月・9月）行った。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外労働時間前年度比 -7.5時間 ・ 休暇取得日数前年度比 1.6日増加 ・ 月80時間を超える時間外労働者 昨年度4人→今年度2人 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日毎月設定した。設定した日に退校できた職員89% ・ 60分以内に終了した会議の割合ほぼ100% ・ 週1日以上部活動休養日→100%
改善課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信は定期的実施しているが、生徒募集に繋がっているとは言い難いなど、効果的とは言えない。 ・ 教職員向けの研修は、関係部署等の連携が不十分かつ計画的に実施されているとは言い難い。 ・ 生徒情報の共有については、より効果的で有意に活用できる仕組みが必要。 		

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・スクールとなった御浜町内の小中学校と連携し、合同研修会等を開くなど、より良い学校づくり、地域とあゆむ学校づくりを目指して協働してほしい。 ・ 情報発信については、さらなる工夫が必要。 ・ 遅刻数の多い生徒が増加している。基本的な生活習慣の指導を強化する必要がある。 ・ 進学を希望する生徒に合わせて、授業や補講などでより高度な内容を行う必要がある。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・新学習指導要領の実施に向けて、カリキュラム編成を検討する。・生徒の思考力、判断力、表現力等育成のための、授業力向上や評価に関する研修等を行う。・キャリアデザインを意識した取組を推進する。・掲示板での情報伝達の徹底や生徒会・委員会活動の活発化など、より生徒の自立を促す取組を充実させる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・情報発信の方策について、より効果が上がるような方策を検討し、実施する。・教職員向けの研修は、より効果的に実施できるように、各分掌や委員会で連携を取り、年度初めに年間を通じた計画を立てる。・生徒の情報については、各分掌等で収集しているものを、統一校務支援システム等を活用するなど一元化を目指し、有意に情報の閲覧・活用・追加等が行えるようにする。・「次年度に向けた改善策」が実施できるよう、さらなる業務の見直しを推進する。